

# 1年いわし組、美術館に行く

小林愛花

美術・工芸コース

美術館に入入りできるのは人間だけですが、もしも人間以外の別の生き物が美術館に来ることができたら？という想像を叶えた作品です。

ペンギンたちが美術館で見ているのは、自分たちの歴史が描かれた絵画です。かつて天敵が待ち構える海に飛び込み、命がけで魚を取っていたことや、人間に飼育されていた時代があったことを伝えています。「ここから安全な場所に引っ越してきて、今の君たちがいるんだよ。」そんな話をよそに、ペンギンたちは他の作品が気になるようです。

美術館に行く、作品を見る、何かを伝える。私たちがしているこの行動が、私たち人間だけのものじゃなくなる、そんな時が遙か先の未来、いつか来るかもしれません。



立体造形(漆)／麻布、卵殻、炭粉、乾漆粉、黒蝶貝、琥珀、金箔／h500×w250×d270mm(他6点、絵画2点)

# to you

## 自然の造形を用いた漆装身具の研究

---

酒井日向

美術・工芸コース

装身具の人を美しく見せるという役割に注目して制作した。自身が最も美しいと感じる自然の造形をモチーフとし、漆による加飾方法を用いてその役割の実現を目指す。装身具は人が身につけることで一つの作品として成り立つ。自然の美しさを身につけることで、外見や気持ちの変化を楽しんでほしい。



漆工芸／漆、鮑貝、麻布、針金、銀粉、和紙、砂糖乾漆粉／h600×w350×d350mm

# 浴火重生

お面の装身具としての現在の在り方について

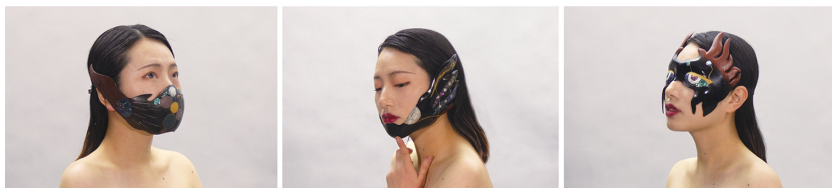
林倩

芸術文化科学研究科

中国には再生を表す四字熟語がある。「涅槃重生」「鳳凰涅槃」「浴火重生」という三つの四字熟語は、瀕死の鳳凰は火の中に身を投げ、巨大な苦痛を受けた後、火を浴びて生まれ変わり、昇華することである。

もし今、逆境の中において苦しんでいるならば、私が作るお面を身につける事で、かつて弱っていた自分を破って、鳳凰のように生まれ変わっていく事を願う。そのために、私は「火」を面の造形のモチーフとして、再生の意味を込めた。人生が落ち込んでいるときも、希望を失わない。最後は灰の中からもっと良い自分に生まれ変わる。

お面の造形では、「火」をモチーフに三猿の教え(見ざる、聞かざる、言わざる)の意を借用して目、耳、口を隠した。正しい判断、ポジティブな選択、楽観的な態度を表現しようと考えた。



工芸／漆、麻布、鮑貝、卵殻、金粉／h210×w150×d140mm

# はんこ蒔絵と呼ばれるゴム印を用いた装飾の研究 『凧』

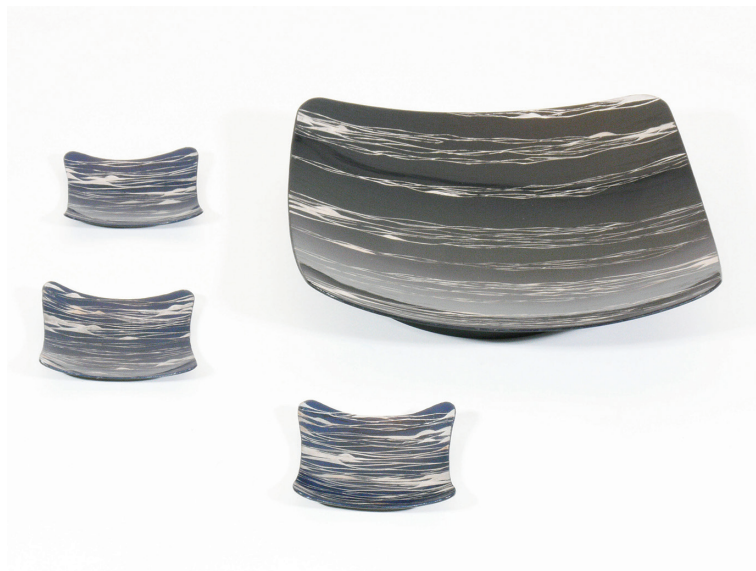
太田博

デザイン工芸コース

はんこ蒔絵による加飾の研究をテーマに家族で使う普段使いの食器を制作しました。

器に施した加飾には私の地元、香川県が面している瀬戸内海の穏やかな海を表現しました。

器に映る瀬戸内海の風景に注目していただければと思います。



工芸／はんこ蒔絵、漆、麻布、銀消粉／h80×w400×400mm(他6点)

## 変わり塗りをを用いた平面表現の研究 「変わり塗飾り皿『葛』」

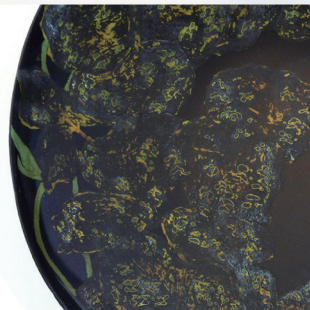
大野弓音

デザイン工芸コース

大学で漆芸を学ぶ中、最も興味を持った変わり塗り技法を用いて壁にかける飾り皿を制作しました。

作品は飾り皿7点を制作しました。小さい皿にはそれぞれに1つつ異なる技法の変わり塗を用い、大皿にはそれら6つの変わり塗りを併用して制作しました。また、モチーフには大学生活の中で身近に感じた植物である葛を選び、その生命力の強さや自由な動きを表現しました。

それぞれ異なる質感、表現を持った飾り皿を楽しんでいただけると幸いです。



工芸／変わり塗り、漆、布／h320×w560mm(他6点)

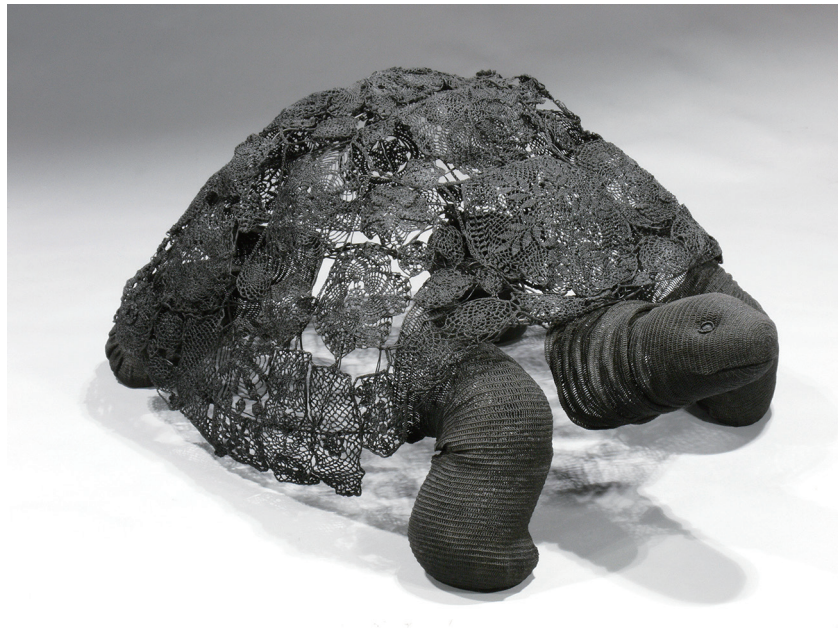
## 透ける

若槻万里奈

デザイン工芸コース

漆を塗ることでレース糸の形を留められることに興味を持ち、制作に取り入れました。

レース編みのモチーフを繋げることでカメの甲羅を表現したいと思い、アルダブラゾウガメをモチーフに軽やかさのある作品の制作をした。



工芸／漆、レース糸、針金／h600×w1100×d700mm

## あとのまつり

北沢穂乃佳

デザイン工芸コース

子供のままでいたくても、いつかは大人になってしまう。丁寧に生きようとしても、結局は生き急いでしまう。そんな想いをイラストレーションと漆で表現した。何かに抗おうとして焦っても、大半のことはうまくいかない。それよりも大事なことは、自分らしく一歩ずつ歩んでいくことなのではないだろうか。



工芸／漆、乾漆粉／h90×w1800×d260mm

## 漆のシェイカー

後藤天音

デザイン工芸コース

シェイカーとは、振って音を出しリズムを刻む打楽器である。

自身のパーカッションを担当し演奏していた経験と漆に興味を持つきっかけになった乾漆技法を組み合わせて制作をした。

表面の質感を楽しみながら演奏できるように、複数の仕上げ方法を用いた。



工芸／乾漆、漆、麻布、植物種、卵白／φ100, 900, 800, 750, 700, 650, 600, 500, 450, 400mm



## らいちょうふあみりーのまち

自作イラストを用いた漆日常雑貨の制作研究

尾崎七夕

芸術文化学研究所

大学院入学後から自作イラストをもとに漆の作品をつくることを始める。私にとってイラストは、気づかないうちに手紙やカード等の言葉の横にちよこつとイラストを描くことが癖になるくらい日常化していて、自分自身好きだということも忘れていた。そんなイラストを漆の作品にも取り入れたいと考えた。

モチーフは、富山市ファミリーパークで出会い、何か言ってそうな可愛らしさの虜になったらいちょうである。私が日々生活する中できゅんとしたものを取り入れ、父のラゴ、母のプス、子供のムタのらいちょうふあみりーとその仲間のスバルのまちを想像し、イラストを描き、そこから飛び出したような漆の作品をつくることを目標に制作した。



工芸・イラストレーション／立体作品：乾漆、変わり塗り、麻布、発泡スチロール、卵の殻、貝、和紙 等 イラスト／油絵具 等